

＜機械・農作業の共同化に取り組む事例＞

○機械の共同化により農業経営の安定を図る

1. 集落協定の概要

市町村・協定名					秋田県由利本荘市柳生金山						
協 定 面 積 11.8ha		田（100%）		畑		草地		採草放牧地			
		水稻									
交 付 金 額 243万円		個人配分								20%	
		共同取組活動 (80%)		共同利用機械購入費（田植機、畦刈機、溝切り機）						62%	
				農地管理費						8%	
				その他（事務費、多面的活動等）						10%	
協 定 参 加 者		農業者 11人								開始：平成12年度	

2. 取組に至る経緯

当集落協定は、由利本荘市の中部、石沢川流域の中山間地域に位置し、農家戸数11戸、農用地面積は11.8haで、主に水稻の作付けを行っている。

中山間地域等直接支払制度が開始された平成12年に集落協定を締結し、農業生産活動を継続してきたが、集落内の農業者の多くは小規模経営であるため、現在の農業情勢では経営が困難となることが懸念されてきた。

そこで、第1期対策では用水確保のため揚水ポンプの設置、第2期対策ではコンバインやトラクター等の農業機械の共同化など経費の節減に努め、農業者の経営安定を図っている。

3. 取組の内容

第3期対策においても経費の節減を図るため、計画的な機械の整備・更新を行う計画であり、平成23年度に田植機や畦刈機、溝切り機を整備している。

その他にも高齢農家が安心して制度に参加できるよう、C要件・集落ぐるみ型を選択し、協定参加者の役割を明確にすることで集落協定の活性化を図っている。



【水路の管理作業】



【共同購入した田植機】

【集落の将来像】

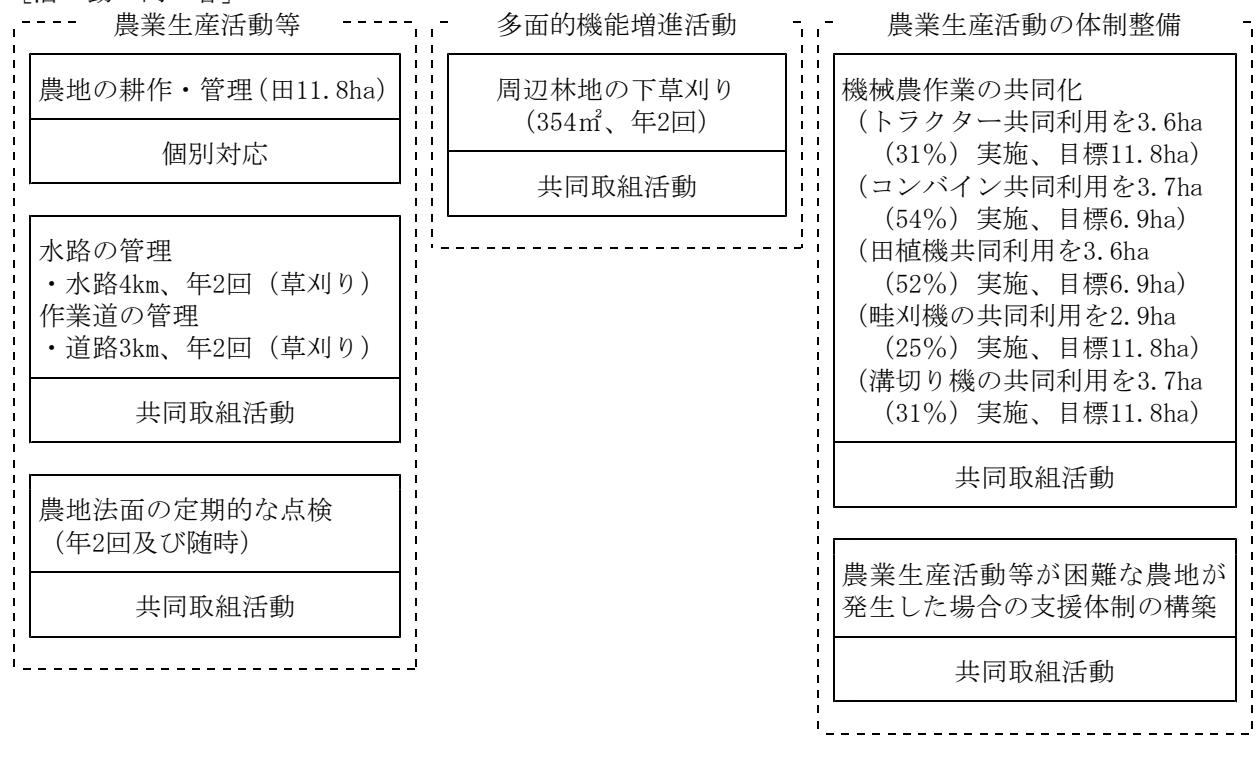
- 農業従事者の高齢化により自己保全等の農用地の増加が予測されるため、農業機械の整備・更新を計画的に行うなど、集落内でのサポート体制の強化を推進する。また、自己保全等の農用地については、今後、そば等を作付けし、生産性の高い農用地としての活用を図る。



【将来像を実現するための活動目標】

- 機械・農作業の共同利用を機械ごとに目標面積を6.9ha～11.8haに定めて推進。農業の継続が困難となった農地が生じた場合に備えサポート体制を維持する。

【活動内容】



4. 今後の課題等

今のところ大きな課題はないが、今後は次の2点について対策が必要であると考えている。

- ①後継者の育成→現状では60歳代が中心となっているが、10年後以降を考える
と後継者の育成が必要である。
- ②農用地の整備→土地改良を実施してから約30年が経過しており、暗渠の設置や
法面、畦畔の補修も検討中である。

【第2期対策の主な成果】

○機械・農作業の共同化

- ・トラクター H17:0ha → H21:3.6ha
- ・コンバイン H17:0ha → H21:3.7ha